

学校企画実践計画書

1. テーマ

病弱養護学校における在宅就労を目指した情報教育の実践

2. 実践のねらい

背景

本校は国立療養所西多賀病院に隣接する病弱養護学校であり、高等部に在籍している生徒の大半は筋ジストロフィーである。在校生の中には大学や専門学校をめざしたり、通所授産施設をめざすものもいるが、継続入院を余儀なくされている。そのため、在学中に余暇活動の充実を図ることが目標となる生徒も少なくない。生徒の身体機能の低下を補うものとして情報通信機器の活用が考えられるが、本校では平成6年度の高等部開設時からパソコンを一人に一台ずつ用意して活用させてきた。

高等部での学習を終えた卒業生は、余暇活動として病棟のサークル活動をはじめ作詞・作曲や印刷物の作成、インターネット等でパソコンを積極的に活用している。これらの活動は高等部在学中の活動の延長であるが、修得した技能を就労に活かしたいと考える生徒も少なくない。また、近年病棟側も在宅での療養を積極的に考えており、将来の在宅就労に向けた情報教育の在り方が高等部の課題となっている。

そこで、今年度から新たな選択科目を配列し、新指導要領の実施に向けて科目配列を検討している。特に、肢体不自由の生徒の生活圏を拡大し社会性を養うことも期待して情報教育を重視し、プログラミング等を中心とするシステム開発と音楽や美術等のコンテンツ制作を中心とした2系列を開講した。本企画では、在宅就労の可能性を視野に入れた情報教育の実践方法を探りたい。

企画実践の必要性、新規性、汎用性、波及効果

在宅就労を視野に入れた情報教育では、インターネットの活用が不可欠であると考えられる。障害者にとって、インターネットは社会の情報を得たり交流したりするための重要な場所であり手段でもある。インターネットを就労に活用している障害者は増えており、東京をはじめ宮城県やその近県ではそれらを支援する団体等もある。インターネットを活用すれば地域の違いは大きな問題ではないが、本校では協力を依頼し直接話を伺うことも可能である。

そこで、本企画では障害者の就労支援団体等の支援を得ながら、在宅就労に関する考察を行い、卒業後にも活かせる知識・技能・態度を養う情報教育の在り方を実践を通して探りたいと考えた。

本企画による効果は、

在宅就労に関する考察を行う際に、障害者就労支援団体等との情報交換が可能となること。
〔障害者就労支援団体等との情報交換の促進〕

障害者就労支援団体等からの支援により障害のある生徒のインターネットの活用を促進できること。
〔インターネット活用の促進〕

インターネットを活用した情報教育によって、特殊教育諸学校に在籍する生徒の社会

参加及び社会自立を支援できること。
が期待できる。

〔社会参加・社会自立の支援〕

企画の成果目標

本企画の成果目標は、

障害者就労支援団体等との情報交換の手段を確立し、生徒及び教師の在宅就労に関する考察に活用できるようにすること。〔障害者就労支援団体等との情報交換手段の確立〕

障害者就労支援団体等の支援を得ながら、ホームページやCD-ROM等を作成を通して卒業後にも活かせる知識・技能・態度を養う。〔知識・技能・態度の育成〕

インターネットを積極的に活用した情報教育の実践方法を検証する。

〔情報教育の実践方法〕

3. 実践計画

(1) 対象

高等部3学年 総合実践

(2) 実施体制

教科担当者を中心に商業、情報担当で実施する。

外部の協力者として、在宅就労支援団体等を予定している。

(3) 実践計画

本企画では、以下の から の活動を中心に展開する。

障害者就労支援団体等との情報交換手段を確立する。主に電子メールを活用したものを考えているが、在宅就労に関して団体および個人と情報交換していく。その際メーリングリストが効果的であると考えられる場合には、メーリングリストを活用していきたい。

在宅就労の可能性も視野に入れながら、生徒の興味関心に応じた実践内容を検討する。まず、在宅就労に関する現状の情報等を協力団体等から電子メールにより提供してもらい、本校の教育課程との関連を担当で検討する。その際平成15年度から実施予定の教育課程を考慮したい。

実践については、障害者就労支援団体等と随時情報交換を行いながら進めていく。対象生徒の興味・関心、学習内容との関連に留意しながら、実習として可能性のある課題を検討し、設定したい。具体的には、グラフィックスソフトや3Dソフトによる素材の作成、ビデオ編集、HTMLオーサリング、CD-ROMオーサリング、データベース構築等から対象生徒の興味・関心等から課題を設定し、取り組ませる。実際の実践では、障害者就労支援団体等からのアドバイス等ももらいながら、生徒が主体となって課題に取り組ませ、評価についても同様にし、在宅就労を想定した実践を進めていきたい。

(4) 指導計画

月	生徒の活動	実践体制
5月	グラフィックスソフトの基本操作	情報教育に関する教育課程の検討
6月	↓	障害者就労支援団体等との計画立案
7月	オーサリングソフトの基本操作	指導計画立案
8月	障害者就労支援団体等とのメール交換	課題の設定
9月	課題の実践	電子メールによる情報交換
	必要に応じてメール交換をしながら進める	↓
10月	↓	課題の設定
11月	課題の実践	電子メールによる情報交換
	必要に応じてメール交換をしながら進める	
12月	評価	評価
1月	実践のまとめ	実践のまとめ

4. その他

- (1) 本実践の公開授業及び発表会等は特に行わない。
- (2) 企画実践状況を公開するホームページは現在準備中である。
URLについてはホームページの公開に合わせて連絡するものとする。